

なし

発行年	1910
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10114/661">http://hdl.handle.net/10114/661</a>

A  
5e  
7

法典講義

梅豆

前正印局  
分



21235

凡 例

一 括弧中ノ數字ハ法令ノ箇條ノ號數ヲ示ス而シテ上ニ其所屬法令ヲ掲ケサルハ改正法案ノ箇條ナ

二 單ニ法令ノ種類ノミヲ示レテ其國名ヲ掲ケサルハ本邦ノ法令ナリ

三 單ニ國名ノミヲ掲ケテ其法令ノ種類ヲ示サルハ民法ノ箇條ナリ

四 二人ハ既成法典人事編(財ハ財產編)取ハ財產取得編(捕ハ債權擔保編)証據編ノ略ナリ

五 憲ハ憲法(商ハ商法)民訴ハ民事訴訟法(刑ハ刑法)刑訴ハ刑事訴訟法ノ略ナリ

六 法ハ法律(勅令(閣ハ閣令)省(省令)府(府令)縣(縣令)警(警令)警察令(訓ハ訓令)指ハ

指令)告(布告)布(布達)ノ略ナリ

七 佛ハ佛蘭西(獨逸)普ハ普魯西(索連)巴ハ巴威爾(澳ハ澳太利)匈ハ匈牙利(英ハ英

吉利)伊ハ伊太利(西ハ西班牙)葡ハ葡萄牙(白ハ白耳義)蘭ハ荷蘭(露ハ露西亞)希ハ希臘(瑞ハ

瑞西)米ハ北米合衆國(紐ハ紐省)加ハ加里保爾尼亞(亞ハ亞爾登)印ハ印度ノ略ナリ

八 二章ハ草案(二章ハ一讀會草案(三章ハ二讀會草案)ノ略ナリ





63218

# 民法

## 第一編 總則

(理由) 本編ハ既成法典人事編ノ財産編財産取得編及七證據編ノ一部ヨリ成ル蓋シ一種ノ權利ニ特別ナルモノヲ除キ凡ソ各種ノ權利ニ共通ナル規則ハ皆之ヲ網羅シテ本編ノ掲ケント欲スルナリ而シテ其順序モ亦力メテ論理ニ從ハント期セリ乃チ第一章ニ於テ權利ノ主格タル人ノ總則ヲ掲ケ第二章ニ於テ人ニ非ズレテ權利ノ主格タルモノ法ノ規則ヲ掲ケ第三章ニ於テ或權利ノ目的タル物ノ原則ヲ掲ケ第四章ニ於テ權利ノ得喪ニ關スル法律行為ノ總則ヲ定メ第五章ニ於テ諸權利ニ適用スル期間ノ計算法ヲ定メ第六章ニ於テ直接又ハ間接ニ權利ノ消滅ニ關スル時効ノ規則ヲ定メタリ

## 第一章 人

(理由) 本章ノ規定ハ主トシテ既成法典ノ人事編中ニ取レリ乃チ第一節ノ權利ノ章ヨリ爲レ何人カ權利ノ主格タルコトヲ得ルカヲ規定シ第二節ヲ能カト爲シ其權利ノ主格タル人カ如何ナル條件ヲ以テ其權利ヲ行使スルコトヲ得ルカヲ示シ第三節ヲ住所ト爲シ人ノ生活ノ本據ヲ定メ第四節ヲ失踪ト爲シ人ノ踪跡分明ナラサル時ノ處置ヲ明カニセリ

既成法典中國民ノ分限及ニ身分證書ニ關スル規定ハ之ヲ削除セリ蓋シ此等ノ事ハ主トシテ公法ニ屬スルモノナラス種々手續ニ關スルモノ多キヲ以テ之ヲ特別法ニ讓ルヲ至當トシタレハナリ





第一節 私權ノ享有

(理由) 既成法典人事編第一章ハ私權ノ享有及ヒ行使ト曰ヘリ今其行使ヲ省キタルハ之ヲ別節ニ規定スルヲ以テ優レリトシタレハナリ

第一條

理由ハ既成ノ典章事編第一條ニハ權利ノ享有ハ行使トヲ推シテ規定スリ而シテ其尙半ニ言ハス凡  
人ハ私權ヲ享有スレノ文字ハ剛カザ言ハス屬ノ文字ヲ以テ之ヲ省キリテ又同第一條ハ蘭ノ二澳ニ  
二英三ノ二西ニ九ヲユリシニ九ヲウブシテ之ヲ省キリテ又同第一條ニ規定スル如ク  
一般ノ胎兒ノ利益トナルニ場合合ハズハ之ヲ既生兒ト同視スルト雖モ斯ト一般ノ之ヲ規定スル  
ハ往々意外ノ結果ヲ生シ頗ル適用ノ苦シムル處アリ因テ今佛七四六七四七四七四七四七四  
〇五三等ノ規定及ビ獨ハ兩國ノ民法草案ニ故ヒ相續遺贈ノ損害賠償等ノ關シテ胎兒ノ權利ヲ認  
メ一般ニ之ヲ既生兒ノ非レハ權利ヲ享有スルコトヲ得サルモノトシテ獨一英七三三三三三三三  
六四二二項ハ白章七四四七五五

第二條

(理由) 本條ハ既成法典ノ字句ヲ修正シタルニ過キス但法律ヲ改メテ法令ト爲シタルハ憲法上命令ヲ以テ外國人ノ權利ヲ規定スルコトヲ得レハナリ

## 第二節 能力

### 第三條

理由) 既成ノ無能力ノ關スルニ般ノ規程ヲ設ケ唯人事觸ル及財産編ノ各處ニ其法規ノ散在セルヲ  
 アノミ而シテ未成年者ノ能力ニ至リテハ前掲ノ關連ノ法文ニ依リテ僅ノヲ擧知スルニコトヲ得ルヲ過  
 スス各稱ノ無能力者ニ本箇中ニ列スル其能力ノ程度ヲ明ニセシ  
 本案ニ自治者未成年者ノ除キタル本邦ニ於テ未ダ明ニ見サルヲ以テナリ又刑ヲ禁治產者ヲ除  
 スルハ改正刑法ニ於テ之ヲ認メタルコトヲ豫期シテナリ

（理由）本條（既成法典）字句修正シタルニ過キズ但私權ノ行使ニ關スルノ數文字ヲ削除シタル  
 第二民法ニ於テハ總ノ私權ニ關スルノ規程ヲ掲グルト第二他ノ法令ニ於テハ單ニ成年ト曰ヒタル  
 トハ解釋上民法（成年）指シタルモノト認メザルヘカガサルト二因

ト曰ヘルは是レ言フヲ待タサル所ナルヲ以テ今之ヲ省キタリ

第四條

(理由) 既成法典典章編纂第五百四十五條第二項及第五百四十八條第三項ニ據レハ暗ニ未成年者ノ切ノ法律行為ヲ獨斷ニ爲シ得ザルコトヲ原則トシ唯同第三百九十九條第一項ニ據レハ未成年者ノ其獨斷ニ爲シタル行為ヲ銷断スルコトヲ得ルモノトセルガ故實際未成年者カ利益ノミヲ受テ行ハズ爲メノ銷断スルコトヲ迫リテ之ヲ行ハシムル殊ニ其法定代理カ獨斷ニ爲シ得ルモノト爲メノ未成年者カ

獨斷ニテ爲タルトキハ缺損ニ基テニ非サレハ之ヲ銷除スルコトヲ得ストセムルカ故ニ(四五四ハ一項此場合ニ於テハ未成年者ノ利益アル行爲ノ銷除スルコトヲ得サルハ勿論ナリ是ニ由リテ之ヲ觀レハ既成法典ノ規定モ實際本文ノ略則一ノ結果ニ生ズヘシト雖モ第一其原則ノ明カニスルノ必要アリノミナラス其細目ニ至リテ大ニ同レカラスルモノアリ蓋シ既成法典ニ於テハ通常缺損ニ基テニ非サレハ銷除ヲ許ササルモ缺損ノ有無ヲ斷定スルハ極メテ難ク或ハ法官ノ判斷其當ヲ失ヒ聽モスレハ相手方ヲ損害シ又ハ未成年者ノ保護ノレテ全カラサレシムルノ虞アリ故ニ今之ヲ廢シヨリ又ハ既成法典ニ據レハ贈與ト雖モ親族會ノ許可ヲ受タルニ非サレハ之ヲ受諾スルコトヲ得サルモノトセリ(入一九四四號財五四七二項)然リト雖モ此等ノ財產上ノ能力ニ付テハ法律ハ財產上ノ利益ノミヲ較量シ若レ未成年者ノ利益アル行爲ナラシニ毫モ之ヲ取消ヲ許スノ理アラサルナリ故ニ負擔ナキ贈與ハ未成年者獨斷ニテ之ヲ受諾スルモ敢テ之ヲ取消スコトヲ得サルモノトセリ

## 第五條

(理由) 本條ノ規定ハ既成法典中ニ若キス又外國ニ於テモ民法ニ此規定ハ揚クルモノ甚メ多カラス而モ其必要欲ヘカラスルコトハ取テ疑フ容レス蓋シ未成年者ト雖モ修學其他ノ需要ノ爲メ多少ノ契約ヲ締結シ多少ノ財產ヲ處分スルノ必要アルハ論ヲ待タズ然レニ若シ此等日需ノ行爲ニ付テ猶ホ一法定代理人ノ同意ヲ得タルニ非サレハ後日取消サルコトアリトセハ誰レカ安シク未成年者ト此等ノ取引ヲ爲ス者アラヤ故ニ法定代理人ノ目的ヲ定メ又ハ之ヲ定メズシテ處分ヲ許ササル財產

ニ限り有效ニ之ヲ處分スルコトヲ得ルモノトシ以テ未成年者ヲ保護シ併セテ取引ノ便利ヲ謀レリ(英國ニ於テモ千八百七十四年「Infants Act」第一條ノ據レハ未成年者ヲ必要品ヲ購ヒタルハ全テ有效ナリトセリ是レ蓋シ本條ト同一ノ精神ニ出デタルモノナリト雖モ或ハ狹キニ失レハ廣キニ過タルヲ以テ寧ロ獨法ニ往往ハル本條ノ主義ヲ採用セリ)

## 第六條

(理由) 一既成法典ニハ商業及ヒ工業ニ付テ本條ニ類スル規定ヲ設ケルト雖モ是レ聊カ救済ニ失スルノ憾アルヲ以テ本案ニ於テハ汎ク營業トセリ

二既成法典ニ據レハ不動産ノ讓渡ニ關シテハ商業ヲ許サレタル未成年者ト雖モ普通ニ未成年者ト其能力ヲ同セウスルモノトセリ是レ近來學者ノ大ニ非難スル所ナリ蓋シ商業ヲ營ムノ許可ヲ得タル未成年者ハ其商業ノ爲メニ不動産ヲ抵當トシ又ハ買入スルコトヲ得ヘシ是レ恰モ直接ノ讓渡スコトハ之ヲ許サスト雖モ間接ニ之ヲ爲スハ可ナリト曰フト一般額ノ條理ニ合ハサルモノト謂フヘシ是レ本案ニ於テ未成年者ハ其許サレタル營業ニ關シテハ全ク成年者ト同一ノ能力ヲ有スルモノトシタル所以ナリ

三本條第二項ノ規定ハ既成法典ニハ之ノキモ其必要ナルコトハ敢テ陳セテ須ササルカ如レ蓋シ父母後見人等ハ未成年者カ既ニ某ノ職業ヲ營ムニ必要ナル智識ヲ有スルモノト信レ之ヲ許シタルモ其未成年者蓋シ其資本ヲ遊蕩ニ費シ又ハ常ニ商標ヲ失ヒ動モスレハ損失ヲ被ムルカ知リコトアラハ



## 第七條

速ニ之ヲ防遏スルコトヲ得シムアルヘカラス是レ本條第一項ノ必要アル所以ナリ

(理由) 一、既成法典ニハ時時本心ニ復スルコト有ルモ本條ニ於テハ之ヲ排除セリ是レ他ナシ既ニ心神喪失ノ常況ニ在ルト云ヘル以上ハ心神ノ喪失ヲ唯通常ノ狀況ナルトキヲ以テ足レリトスヘキコト明カナレハナリ蓋シ喪失者ニシテ一切本心ニ復スルコトナシトセハ其行爲ハ禁治產ナキモ皆當然無効タルヘキカ故ニ特ニ其治產ヲ禁スルノ要ナレ唯時時本心ニ復スルコト有ル場合ニ於テノモ特ニ其治產ヲ禁シ以テ一ノ行爲カ其喪失心中ニ爲シタルモノナルヲ解キ本心ニ復シタル間爲シタルモノナルヲ付生スヘキ爭議ヲ未然ニ防グノ要アルナリ而シテ其本心ニ復スルコト有ルト否トヲ問ハス治產ヲ禁スル所以者ハ他ナシ其本心ニ復スルコト有ルヘキヤ否ヤヲ推知スルコト難ト後見人ヲ選ビ又第三者ニ告知スル爲メニ裁判上ニ其病ヲ公認スルノ必要アリ而シテ之ニ禁治產ノ制ヲ利用スルノ簡便ナルニ如カサルコトヲ以テナリ

二、禁治產ヲ請求スルコトヲ得ル者ノ中ニ本人ハ後見人ハ保佐人ヲ加ヘタルハ時時本心ニ復スル喪失者ハ自ラ禁治產ノ必要ナルコトヲ悟リ之ヲ請求セント欲スルコトアルレト未成年者ノ禁治產ヲ宣告スヘキ場合ニ於テハ後見人ハ保佐人カ尤モ其必要ヲ覺知スヘキ地位ニ在ルトニ因

三、既成法典人事編第二百二十三條第一項ノ原裁判所ニ文字ヲ削リタルハ是レ專ラ裁判所ノ管轄

ニ關スルモノニシテ手續法ニ屬スルヲ以テナリ(二十三年十月八日法一〇四號二〇ニ之ヲ定メタル)

四、同條第二項モ亦手續法ニ屬スルヲ以テ之ヲ削レリ

## 第八條

(理由) 本條ハ全ク既成法典人事編第二百二十四條第一項、同而シテ其第二項以下ヲ削リタル理由ハ後見ニ關スル規定、總テ親戚編ニ掲グルコトシタルヲ以テナリ

## 第九條

(理由) 一、既成法典人事編第二百三十條ニハ裁判、言談、口、日、リ、無能力者ト云ヘタルニ是レ裁判ノ效力ニ關スルモノナルヲ以テ之ヲ手續法ノ規定ニ讓リ茲ニ明言セズ

二、無能力者トスト曰フモ其無能力ノ程度判斷セズ從テ次項ノ規定ヲ要スルニ至レリ故ニ寧ろ本文ノ如ク改ムルヲ以テ妥當トス

三、同條第三項ヲ削除シタル理由ハ未ダ禁治產ノ宣告アラサル間ハ普通ノ原則ニ從ヒ意思ノ有無ニ依リテ行爲ノ有效無效ヲ分クヲ以テ適當トス蓋シ同レテ精神ノ錯亂セル者ノ行爲ニシテ一ハ後日禁治產ヲ受ケ一ハ終ニ禁治產ヲ受ケサリシニ因リ差等ヲ設グルノ理アラサレハナリ殊ニ原文ニ據レハ行爲ノ當時ニ於テ喪失ノ明確ナルトモ、銷除ノ權ヲ行フコトヲ得ルモノトセシメカ故ニ後日禁治產ヲ受ケタルニ至リタル重症ノ疑難者ノ行爲ノ單ニ之ヲ銷除スルコトヲ得ルニ止マリ終ニ禁治產ヲ受ケ

ルノ必要ナカリシ經年ノ範圍者ノ行爲ハ却テ全ク無効トナルノ奇觀ヲ呈スヘシ是レ此原文ヲ削除スルノ急レルニ如カスト信シタル所以ナリ

四禁治產ヲ爲テサレ範圍者ニ關スル規定ヲ全廢シテ理由ハ元來佛、白蘭等ノ諸國ニ於テ禁治產者ノ外別ニ監獄病院ニ在ル者ノ能力ヲ定ムルノ必要ヲ認メタルハ全ク禁治產ノ制其宜レキヲ得サルニ職由セスシハアラス然ルニ今新ニ法典ヲ編纂スルニ當リ故テ禁治產ノ制ヲ不完全ニシ以テ禁治產外ニ別個ノ制度ヲ設ケテ之ヲ稱フノ必要ヲ生シムルノ不可ナルハ固ヨリ言フヲ待マス若シ禁治產ノ制ニシテ其宜レキヲ得テ禁治產外ニ之ト並行スヘキ別個ノ制度ヲ設ケタルハ聊カ蛇足ニ類スルモノアルヲ恐レ唯夫レ範圍者ノ事實ニ於テ自ラ其財產ヲ治ムルコト能ハサルガ爲メニ特ニ管理人ヲ置キ之ヲ職分ヲ定メ又不法ノ監禁ヲ防止シ狂人ガ公安ヲ害スルハ危險ヲ豫防セシカ爲メニ適當ノ處置ヲ施スカ如キハ事或ハ行數ニ關スルモノアルヲ以テ總テ之ヲ特別法令ニ讓ルコト諸外國ノ例ノ如クスルヲ可トシタルナリ

## 第十條

(理由) 一 既成法典人事編第二百三十一條ハ禁治產ノ解止ヲ請求スルコトヲ得ル者ヲ列舉セリ然ルニ前ノ禁治產ノ宣告ヲ請求スルコトヲ得ルモノト小異アリ是レ聊カ其當ヲ得サルナリ如レ蓋シ或事ヲ創始スルノ權利アルモノハ又之ヲ廢止スルコトヲ得ルヲ常トスルハ普通ノ原則ナリ而シテ改正案ニ據レ尤モ禁治產ノ請求スルコトヲ得ル者ノ範圍ヲ擴張セルカ故ニ此等ノ者ヲ禁治產ノ解止ヲ請求スルコトヲ得セシメハ以テ足レリトスヘシ又此等ノ者ハ尤モ禁治產ノ宣告ニ付キ利害ノ關係ヲ有スルト同時ニ其解止ニ付テモ亦大ニ利害ノ關係ヲ有セルカ故ニ此等ノ者ハ必之ヲ請求セルコトヲ得セシメタルヘカラス

二 原文ノ第二項ハ當然言フヲ待タサルヲ以テ之ヲ除キタリ

## 第十一條

(理由) 本條ハ殆ト既成法典人事編第二百三十一條第一項ニ字句ヲ修正シテ施シタルニ過キズ唯原文ニ部、監者アリシヲ監者、監者ト改メ必スモ監ニシテ監ナルモノニ限ラス苟モ監者、監者ハ皆准禁治產者トスルコトヲ得ルモノトシテ蓋シ既成法典ハ伊、澳、西諸國ノ法律及ヒ白國民法草案ニ於ケルカ如ク生來ノ監者ニ限リ准禁治產者トスルノ精神ナルヘシト雖モ其分ノ理由ヲ經見シ難キノミナラス若シ監者ニシテ然ラハ官者モ亦生來ノ官者ニ限ラサルヘカラス是レ普塞諸國ノ法律(普塞法)ニ監者ト監者、監者ト聊カ其規定ヲ同レリト雖モ其之後見ニ付サルハ則チナリ及ヒ獨逸民法草案ニ依ヒ必スモ監者タルコトヲ要セサルモノトシタリ

## 第十二條

(理由) 一 既成法典ニハ保佐人ノ同意ヲ要スル行爲ニ付テハ先ツ自治未成年者ニ關スル法條ニ讓リ其自治未成年者ニ關スル法條ニ於テハ又後見ニ關スル法條ニ讓リ後見ニ關シテハ頗ル改正ヲ要スルモノアルヲ信スルカ故ニ之ヲ註ニ明記スルヲ必要トセリ



二 既成法典人事編第百九十四條ニハ贈與ヲ爲スコトヲ言ハス財産取得編第三百五十六條ニハ財産譲渡ノ爲メ法律ノ要ムル方式ニ從フヘキコトヲ言ヘルヲ以テ不動産又ハ重要ナル動産ノ贈與ヲ爲スニハ準禁治産者ハ保佐人ノ同意ヲ經テ之ヲ爲スヘキモノトセルカ如シ然リト雖モ贈與ハ損失ノミアリテ毫モ利益ナキモノナルカ故ニ一切ノ場合ニ於テ保佐人ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノトスルヲ可トシタリ

三 負擔ナキ贈與遺贈等ヲ受ケルハ未成年者猶且獨斷ニテ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトセシカ故ニ準禁治産者カ獨斷ニテ之ヲ爲スコトヲ得ヘキト云フヲ待メサルナリ

四 既成法典ニハ一切保證ノ事ヲ言ハス蓋シ是レ亦保佐人ノ同意ヲ要スルモノトスル意ナラン然レトモ之ヲ明言セサレハ疑ヲ招ク虞アルヲ以テ本案ハ之ヲ明言セシ

五 原文ノ如ク保佐人ノ立會ト云フトキハ保佐人必ス其席ニ在ルコトヲ要スルカ如ク見エテ不可ナルヲ以テ之ヲ同意ト改メタリ

六 既成法典財産編ニハ特別ノ方式ヲ要スル行爲ニ付テハ若シ其方式ヲ闕マサルトキハ當然其行爲ヲ取消スコトヲ得ルモ(附五四七二項)單ニ保佐人ノ同意ノミヲ要スル場合ニ於テ共同意ナシテ其行爲ヲ爲レタルトキハ餘額ニ因リテノミ之ヲ取消スコトヲ得ルモノトセリ(附五四八二項)

然レトモ準禁治産者ノ行爲ニ特別ノ方式ヲ必要トスルモノハ法典中之ヲ發見セズ日餘額ノ有無ヲ別ツハ困難ニレテ弊害ヲ生レ易キコトハ既ニ論シタルカ如シ(四)是レ本條ニ列舉セザル行爲ニ付キ

保佐人ノ同意ヲ得サレトキハ總テ之ヲ取消スコトヲ得ルモノトシタル所以ナリ但財産編ニハ前述ノ如ク規定セリト雖モ人事編第二百二十四條ニハ第二百二十條ヲ適用スル第二百二十條ニハ禁治産者カ當然其行爲ヲ取消スコトヲ得ル旨ヲ規定セルヲ以テ人事編ノ規定ハ本案ト毫モ異ナル所ナキナリ

七 既成法典人事編第二百三十三條ノ如ク第二項ニ於テ管理行爲ト曰フトキハ第一項ニハ一切管理行爲ヲ包含セズ又處分行爲ハ皆之ヲ包含スルモノナリ如ク見ルモ是レ事實ニ反スルヲ以テ本文ノ如ク改メタリ

八 準禁治産者ノ爲シタル行爲ハ原則トシテハ有效ナルカ故ニ保佐人ノ立會アルニ非サレハ管理行爲ヲ爲スコトヲ得スト曰フハ則カ穩ナラザルヲ以テ保佐人ノ同意アルコトヲ要スト改メタリ

### 第十三條

(理由) 本條ハ既成法典人事編第二百三十三條第二項及第二百三十五條ニ該當ス然レトモ準禁治産ノ請求及ヒ取消ニ付テ禁治産ト其規定ヲ異ニスル理由ナキヲ以テ總テ禁治産ニ關スル規定ヲ準用スルコトトセリ

### 第十四條

(理由) 一 既成法典人事編第六十八條ニハ許可ヲ得ハニ非サレハ其某事ノ事ヲ爲スコトヲ得スト云ヘルモ全ク得サルニ非ス後日之ヲ取消スコトヲ得ルノミ故ニ取消ヲ請フコトハ其行爲有效ナリト謂ハ



サレコトヲ得ス此レ單ニ行爲ヲ爲スニハ夫ノ許可ヲ要ス。ト改メタル所以ナリ。  
 二 同條ニ據レハ元木ヲ領收スルニハ夫ノ許可ヲ要スルモ之ヲ利用スルニハ其許可ヲ要セサルモノ  
 トセリ然リト雖モ其利用ノ方法如何ニ依リテハ或ハ妻カ夫ニ對スル義務ヲ盡ササルモノト視ルヘキ  
 コトナキヲ保セス是レ元木ノ利用モ其領收ト同レク夫ノ許可ヲ要スルモノトシタル所以ナリ。  
 三 遺産ノ重要ナルモノハ最デ不適宜ト其經重ヲ異ニセシ讓受モ亦讓渡ト同様ニ重要ナルモノト視  
 ルヘキコトハ既ニ遺禁治產者ニ付テ執レル所ノ主義ナリ(二二三號)  
 四 訴訟ニ答辯スルハ其他債之ヲ提起スルハ毫モ異ナル所ナク其他訴訟行爲ハ總テ依餘多キモノナ  
 ルヲ以テ遺禁治產者ニ付テ規定セシ如ク妻モ訴訟行爲ヲ爲スニハ常ニ夫ノ許可ヲ要スルモノトセ  
 リ(二二四號)

五 原文ニ於テハ贈與ヲ受諾スルニハ夫ノ許可ヲ要スルモノ之ヲ拒絕スルニハ其許可ヲ要セサルモノ  
 トセリ是レ一理ナキニ非ス何トナレハ贈與ハ束ト一ノ契約ニシテ受贈者ニ於テ之ヲ承諾スルマハ  
 未ダ成立セサルモノト視ルコトヲ得サレハナリ然リト雖モ之ヲ拒絕スルモ概シテ利益ナルコトハ敢  
 テ疑フ容レズ是レ之ヲ拒絕スルニモ夫ノ許可ヲ要スルモノト改メタル所以ナリ。  
 六 遺贈ノ受諾拒絕相續ノ承認拋棄ハ原文ニハ之ヲ妻カ夫ノ許可ヲ受テハ本事項中ノ揭ケスト雖モ  
 遺贈ヲ受タルハ其遺贈者ニ因リテハ或ハ之ヲ屑トセサルコトアリ又他人ノ家督又ハ遺産ヲ相續スル  
 ハ事頗ル重大ニ屬シ且財產上ニ於テモ相續人ノ爲メニ不利益ナルコトナレトセズ又遺贈ヲ拒絕シ相

續ヲ拋棄スルノ通常不利益ナルコトハ敢テ喋々ヲ待タズ是レ新ニ遺贈ノ受諾拒絕相續ノ承認拋棄  
 フ加ヘタル所以ナリ

七 之ヲ要スルニ本條ニ列舉セル行爲ハ殆ト第十二條ニ列舉セルモノニ同レ面シテ其全ト同レカラ  
 サル所以ノモノハ他ナレ遺禁治產者ハ其精神完全ナラサルヲ以テ專ラ之ニ不利益ナル行爲ヲ爲ササ  
 ラシメシコトヲ謀ラシムハアルヘカラス之ニ反シテ妻ハ其精神ノ不完全ナルカ故ニ無能力ナルニ非  
 ス是ヲ以テ未婚ノ女子及ヒ寡婦ハ其能力ニ於テ男子ト異ナナキヲ原則ニス唯有夫ノ婦ハ夫ニ順從  
 スルノ義務アルカ故ニ行爲ノ性質ニ依リ夫ノ許可ヲ受タルコトヲ要スルモノトシタルナリ是レ妻ト  
 遺禁治產者ト聊カ異ナラサルコトヲ得サル所以ナリ

# 第十五條

(理由) 既成民法ニハ此規定ナク商法ノミ之アリト雖モ事能力ニ關スルヲ以テ未成年者ノ例ニ倣ヒ  
 此ニ之ヲ掲グルヲ妥當トス況ヤ是レ必ズレモ商業ニ關セシ一切ノ職業ニ付テ皆同一ナルヘキニ  
 於テナリ

商法第十三條ニハ凡ソ商ニ爲ス妻ノ能力ヲ掲ケタリト雖モ一ノ商取引ヲ爲シニ付テハ別ニ特例ヲ設  
 ケルノ謂ハレナク唯商業其他一ノ職業ヲ營メル妻ノ能力ハ特ニ之ヲ規定スルノ理由アリ蓋レ一ノ職  
 業殊ニ商業ヲ營ムノ許可ヲ得タル妻ハ事苟モ其職業ニ關スル以上ハ每事夫ノ許可ヲ受ケテ始メテ之  
 ヲ行フコトヲ得ルトセハ到底其職業ヲ營ムコト能ハサルヘキ故ニ一旦其職業ヲ許シタル以上ハ其當

然ノ結果トシテ其職業ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲スノ許可ヲ與ヘタルモノト視サルコトヲ得サルナリ  
是レ佛蘭伊白蘭澳西環ノ商五ノ項七等ノ諸國ニ於テ商業又ハ其他ノ職業ヲ營ムル妻ニ付  
テノミ規定スル所以ナリ

## 第十六條

(理由) 一 既成法典人事編第六十九條ハ夫ノ許可ハ特定又ハ總括ナルコトヲ得ト云ヘルモ是レ反  
對ノ明文ナキ以上ハ言フヲ待タサル所ナリ佛蘭民法ノ如キハ特ニ管理行爲ニ付テノミ總括ノ許可  
ヲ與フルコトヲ得ルト云ヘルニ因リ處分行爲ニ付テハ之ヲ與フルコトヲ得サルナリ故ニ佛蘭ノ如  
キ明文ヲ掲ケサレハ夫ノ許可ハ特定又ハ總括ナルコトヲ得ルハ自明ナリ

二 同條ニハ總括ノ許可ハ證書ヲ以テ之ヲ與フルコトヲ要スト云ヘルモ夫婦間ニ證書ヲ授受スルカ  
如キハ我輩國ニ之ナキ所ニシテ苟モ其許可アリタル證據明カナル以上ハ必キ證書ヲ要スルノ理  
由アリサルナリ

## 第十七條

(理由) 一 既成法典人事編第七十條ニ夫ノ失蹤ノ推定ヲ受ケタルトキトアリタルヲ夫ノ生死分明  
ヲサルコトト改メタルハ失蹤ノ推定ナル語ヲ廢センカ爲メナリ尙本第四節ニ至リテ之ヲ詳述スヘ

二 商法第十二條ニハ妻カ夫ニ遺棄セラレ又ハ夫ヨリ必要ノ給養ヲ受ケサルトキハ夫ノ承諾ヲ要セ

サルモノトセリ是レ至當ノ規定ニシテ實ニ商業ニ關シテノ之ヲ設ケヘキニ非ス如何ナル行爲ニモ  
之ヲ適用スヘキカ如シ唯夫ヨリ必要ノ給養ヲ受ケサルトキハ若シ夫ニ惡意アラシカハ是レ夫ニ遺棄セ  
ラレタルナリ若シ夫ニ給養ヲ爲スノ資力ナカラシカハ是レ夫ニ單ニキカ故ニ猶本妻ヲテ之ニ順從セ  
レメシハアルヘカラス因テ本文ノ如ク改メヨリ

三 前ノ竊竊ノ爲メ病院又ハ私宅ニ監置セル者ヲ以テ無能力者トセサルコトヲ言ヒ(九理由四)  
面シテ夫ノ竊竊ノ爲メ病院又ハ私宅ニ監置セル者ハ其許可ヲ受クルコトヲ要セズトセル  
ハ頗ル前後矛盾セルニ似タリト雖モ妻カ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要セルハ必スレモ夫ノ無能力ナ  
ル場合ニ限ラス唯實際其許可ヲ受クルコト能ハサル場合ニ於テハ情之ヲ要セサルコトトシタルナ

四 本條第五號及第六號ヲ加ヘタルハ實際ノ必要ヲ應ジテナリ

## 第十八條

(理由) 既成法典ニハ本條ノ規定ナシ故ニ未成年ノ夫ハ自己ノ爲メニハ本國獨斷ニテ重大ナル行爲ヲ  
爲スノ能力ヲ有セサルニ拘ハラシ其妻レハ之ヲ許可セサルコトヲ得レシ是レ頗ル其當ヲ得サルモノア  
リ蓋シ未成年者ハ未タ重大ノ行爲ニ付キ十分ニ其利害得失ヲ辨識スルノ智能ヲ備ヘサル者ト認メテ  
之ヲ無能力者トセルナリ然ルニ自己ノ利害得失ハ之ヲ辨識スルノ智能ヲ備ヘサル他人ノ利害得失  
ハ之ヲ辨識スルノ智能アリト曰フハ前後矛盾ナリ是レ白國法律ニ倣ヒ本條ノ規定ヲ設



ケタル所以ナリ（白國法律ハ商業ニ關シテノモ之ヲ規定スルモ雖モ商業ニ他ノ行爲トゾ區別スル理由ナキカ如シ）

## 第十九條

（理由）本條ハ既成法典ニハ全テ之ヲ缺ケリ然レトモ其必要ナルコトハ多辯ヲ待タズシテ明カナリ蓋シ既成法典ノ如クシテハ相手方ハ無能力者ヲ能力者トナリタル後五年ヲ經過スルマデハ何時其行爲ヲ取消ヲ請求セザルヤ計ルベカラス其間其權利ノ不確定ニシテ其者ノ不利益ハ勿論公益上亦斯ク權利ヲ不確定ノ狀態ニ委スルハ策ヲ得タルモノニ非ス故ニ短期內ニ其行爲ヲ取消セシ者ヤヲ確答セシメテ以テ達ニ其權利ヲ確定スルコトヲ得セシメント欲シタルナリ

## 第二十條

（理由）本條ハ既成法典財產書編第五百四十九條ニ字句ノ修正ヲ加ヘタルノミ

### 第三節 住所

（理由）既成法典ニハ本籍ヲ以テ住所トスルノ主義ヲ執レリト雖モ所謂本籍ナルモノハ往々有名無實ニシテ法律上ノ生活ヲ爲スノ地ト同シカラサルコト多シ是レ既成法典人事編第二百六十一條ニハ例外ヲ設ケ本籍地ハ生計ノ主要タル地ト異ナルトモハ主要地ヲ以テ住所ト爲スト規定セラル所以ナランカ若シ然ラハ寧ろ例外ヲ以テ原則トシテ生活ニ本籍ヲ以テ住所ト定ムルノ主義ヲ執ルヲ以テ急レリトス是レ本節改正ノ眼目ナリ

## 第二十一條

（理由）本條ハ既成法典人事編第二百六十二條及第二百六十三條ヲ既ニ述ヘタル理由ニ依リテ改メタルナリ而シテ原文ニ民法上ノ住所トアリシヲ單ニ住所ト改メタルハ凡テ改正法典ニ於テハ力メテ民法中ニ公法ニ屬スル事項ヲ規定セサルノ主義ヲ執レルカ故ニ特ニ民法上云々ト曰ハサルモ其公法上ノモノヲ規定スルニアラサルコトハ明カナリ且此ニ住所ト曰ヘルモノハ純然タル民法ノミナラス商法民事訴訟法等ニ適用スヘキモノナルカ故ニ單ニ住所ト曰フヲ以テ優レリト信シタルハナリ

既成法典ニハ住所ヲ定メ又ハ移スニハ必ス之ヲ届出フルコトヲ要スルモノトセリ是レ蓋シ從來ノ本籍ヲ取りテ直チニ住所トスルモノトモ或ハ必要ヲラント雖モ苟シ生活ノ本據ヲ以テ住所トスル以上ハ敢テ届出ノ有無ヲ問ハス專ラ事實上生活ノ本據ト爲レル地ヲ以テ住所トセサルヘカラス是レ人事編第二百六十三條第二項第二百六十四條第一項及第二百六十五條ヲ削除シタル所以ナリ

既成法典人事編第二百六十三條第二項及第二百六十四條第二項ヲ削除シタル所以ハ未成年者ノ住所ニ付テハ親其親中親權及後見ノ部ニ於テ之ヲ規定スヘキモノト信シタルヲ以テナリ

## 第二十二條

（理由）本條ハ既成法典人事編第二百六十七條第二號ニ同レ而シテ其第二號ニ分チテ次條ヲ設ケタル所以ハ日本ハ住所ヲ定ムルハ外國人ニ關シテハ必スシモ其居所ヲ以テ住所ト代用スルコトヲ得サル



## 第二十二條

ハ次ニ論スル如クナレハナリ

(理由) 本條ハ既成法典人事編第二百六十七條第二號ニ左ノ增補改正ヲ加ヘタルモノナリ  
 一 法例第八條ニ據レハ本國法ヲ適用ス可キ諸般ノ場合、於テ何レハ國民、分限ナキモ、有セサル者又ハ、地方、依リ、法律ヲ異ニスル國ノ人民ハ其住所ノ法律ニ從フヘキモノトセリ而シテ此住所ト云フハ日本又ハ外國ニ於テ其者ノ有スル住所ナルコト疑ヲ容ルヘカラス若シ然ラスレバ此場合ニモ亦既成法典人事編第二百六十七條ヲ適用スヘキモノトセハ常ニ日本ノ法律ニ依ヘキモノナルカ故ニ從テ  
 二 往來スル住所ハ法律ニ從フテ論ヲ用ユルニ理ナシ是レ本條但書ニ必要トシタル所以ナリ  
 三 原文ニ「單ニ左ノ場合、於テ、居所、以テ住所ニ代用ス」日本ノ住所ヲ定ムルハ外國人ニ關スルモノト曰ヘキヲ以テ其居所外國ニ在ルモノヲ猶本居所ヲ以テ住所ニ代用スヘキモノト如シ是レ日本ニ於ケルノ數文字ヲ加ヘタル所以ナリ

## 第二十四條

(理由) 本條ハ既成法典人事編第二百六十八條ニ些少ノ修正ヲ加ヘタルモノナリ而シテ原文但書ヲ除キタル理由ハ苟モ當事者ノ意思ニシテ明瞭ナル以上ハ必ズシモ書面ヲ要スルノ理ナキヲ以テナリ他ハ字句ノ修正ニ過キス

## 第四節 失踪

(理由) 既成法典ニ據レハ何人ニテモ生死ノ分明ナラザルコト五年又ハ七年ニ至ルマデハ通常其者ヲ生存セザルモノト看做シ單ニ其財產ヲ管理セシムルニ止メ五年又ハ七年ヲ經過スルモノハ殆ト之ヲ死亡セシモノト同一視シ其死亡ニ因リテ權利ヲ得ヘキモノヲ保護スルト雖モ猶本條分カ失踪者ヲ保護スルノ規定ナキニ非ズ今之ヲ從來ノ慣例ニ補フ又之ヲ一般ノ法理ニ照ラスニ則チ其當ヲ得ザルモノアルカ如シ蓋シ失踪ノ宣告アルマデハ專ラ不在者ヲ保護スヘキハ論ヲ依ズルニ雖モ一旦失踪ノ宣告スル以上ハ全テ之ヲ死亡セシモノト看做シ敢テ利害關係人ヲシテ不確定ノ狀態ニ在ラシメザルコトヲ要ス唯此確定ヲ下メス以上ハ幾分か其年限ヲ延長シテ失踪者ヲ保護スルノ必要ヲ生スルモ但生死不明ヲ以テ離婚ノ原因ト爲スカ如キ從來既ニ慣行セル所ニシテ而モ其期限ニ至リテハ離婚前ハ僅カ數月ノ後之ヲ許スノ慣例殊カラサリシカ如ク民事慣例類集一八二頁以下離婚後三至リテモ滿三年ノ後又事情ニ因リテハ是ヨリモ早ク離婚ヲ許セカ故ニ法例臺灣初版四〇九頁以下第二版一九〇頁以下第三版一三七頁以下等失踪ノ宣告前ニ之ヲ許スニ非サレハ頗ル舊慣ニ悖ルノ虞アルヘシ猶ホ此等ノ事ハ親族編ニ至リテ規定スヘキ所ナリ

## 第二十五條

(理由) 本條ノ規定アル所以ハ他ナシ不在者ノ財產ノ動産モスレハ朽腐消失ノ虞アルヲ以テ之ヲシテ力メテ適當ノ管理ヲ得セシメント欲シタルナリ故ニ敢テ其本人ノ生死ノ分明ナラズアルトモ論ナク裁判所ヲシテ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得セシメシムルハアルヘカラス是レ既成法典人

事編第二百七十一條ニ於テ失踪ノ推定ノ受ケタル者ノ財産ニ付テ管理人ヲ指定シタルト同時ニ其第二百八十八條ニ於テ未ダ失踪ノ推定ヲ受ケタル者ノ財産ニ付テ必要ノ保存處分ヲ命ジシタル所以ナリ而レテ之ヲ一條ニ總括シテ本文ノ如ク規定スルヲ以テ簡且明ナリト信シタルナリ

二、原文ニハ住所及ビ居所ヨリ亡失シ又ハ住所若クハ居所ヲ去ルト云ヘリ然レトモ改正案ニ於テハ各人ノ生活ノ本據ヲ以テ住所トシタルカ故ニ從來ニ住所ヲ去リテ新ニ住所ヲ定メタルヲモ知ヘカラス況ヤ居所ニ至リテハ實際之ナキコトハ稀ナルヲヤ是レ從來ノナル文字ヲ加ヘタル所以ナリ

三、原文ニハ區裁判所トアリタルヲ單ニ裁判所ト改メタル所以ハ他ナレ裁判所ノ權限ハ或ハ之ヲ變更スルノ必要ヲ生スルコトアルヘキカ故ニ特別法又ハ民法施行條文中ニ其裁判所ノ種類ヲ定メ民法中ニハ之ヲ定メサルヲ可トシタルハナリ(七理由三ノ參觀セ)

## 第二十六條

(理由) 一、既成法典人事編第二百七十一條ニハ代理人ハ失踪ノ推定中本人ノ財産ヲ管理ストアリタルモ代理人ノ權限ハ特ニ期限ヲ定メサルトキハ通常委任者又ハ代理人ノ死亡ニ至ルマデ繼續スヘキモノシレテ今失踪ノ推定ヲ受ケタル者ハ生死未ダ判然セス而シテ死亡ニ因リテ權限消滅シタルヲ主主張スル者ハ先ヅ其死亡ヲ證明セサルヘカラス故ニ其死亡ノ判然スルマデハ代理人ノ權限繼續スヘキハ言フヲ待タス又特ニ期限ヲ定メサルトキハ其期限ノ到来ニ因リテ其權限消滅スヘキハ勿論ナリ故ニ必スシモ失踪ノ推定中本人ノ財産ヲ管理スト曰フコトヲ得ズ是レ右ノ十數字ヲ削除シタル所以ナリ

二、原文ニハ現實ノ利益ヲ有スル關係人ノ推定繼續人トアリタルヲ單ニ利害關係人ト改メタルハ他ナリ利害關係人ト云フハ通常ハ現實ノ利益ヲ有スル者ヲ指シ而シテ推定繼續人ノ如キハ現實ノ利益ヲ有セスト雖モ其中ニ包含スヘキヲ以テナリ

三、原文ニハ代理人ハ解任ヲ言渡シ又ハ其後任ヲ指定スルコトヲ得トアリタルヲ管理人ヲ改任スルコトヲ得ト改メタルハ原文ニ據レハ單ニ之ヲ解任スルニテ後任者ヲ選定セサルコトヲ得ルモノノ如ク見ユラフ不可ナルト管理人ノ權限消滅シタルニ因リ其後任者ヲ選定スル場合ハ既ニ前條ニ之ヲ規定シタルトニ因リ

## 第二十七條

(理由) 一、既成法典人事編第二百七十三條ニハ動産及ビ證書ノ目錄ヲ調査ス可シ又不動産ノ形狀ヲ確定シシムル爲メ鑑定人ノ選定ヲ裁判所ノ請求スルコトヲ得鑑定人ノ報告書ハ裁判所ノ認可ニ付スルコトヲ要ス云ヘリ然レトモ是等ハ皆手續ニ屬スル規定ニシテ現明治二十二年十月三法律第九十五號非訟事件手續法第四十二條ニ類似ノ規定アリ唯既成法典ハ不動産ニ付テ鑑定人ヲ選定スルコトヲ言ヒ非訟事件手續法ニハ之ヲ言ハサルヲ要アルモノ然リト雖モ何レノ場合ニ於テ之ヲ要セサルヲ要シ動産ニハ之ヲ要セサルヲ煩ル所ナリ又何カ故ニ他ノ場合ニ於テハ之ヲ要セサルニ此場合ニ於テノミ鑑定ヲ要スルハ是亦其理由ヲ發見スルコト能ハサルナリ因テ改正案ニハ單ニ財産ノ目錄ヲ調査スヘシト爲シタリ



二、第三項ヲ附加シタル所以ハ他ナシ管理人カ金錢ノ受取リタルトモ其適當ノ處分ヲ命ジ其他時時計算書ヲ提出シタル等財産ノ保存ニ付終始裁判所ニ於テ監督指揮ヲ爲スニ非サレハ管理人動モスレハ奸曲又ハ怠慢ノ所爲ナキヲ保セシ然リト雖モ蘭國ニ於ケルカ如ク其命スヘキ處分ヲ列舉スルトキハ簡ニ失シテ一切ノ必要處分ヲ包含セサルニ非サレハ必ズ煩冗雜難ニ涉ルハ斷アリ而モ獨澳達等ノ諸國ニ於ケルカ如ク或ハ不在者後見ニ付或ハ之ニ後見ノ規則ヲ適用スルハ聊カ鄭重ニ失スルカ如シ是レ本文第三項ヲ以テ包括ノノ規定ヲ設ケ裁判所ヲレテ時宜ニ從ヒ最モ適當ノ處分ヲ施スコトヲ得セシメント欲シタル所以ナリ

## 第二十八條

理由也 既成法典人事編第二百七十三條第二項ノ規定ヲ削除シタルハ他ナシ其規定中ニ掲ケタル行爲ハ當然管理行爲中ニ包含セラルモノト信シタルヲ以テナリ但本案ニ於テ管理行爲ナル文字ヲ用ヒスシテ後ノ第百三條、定メタル權限トセリ  
改正案ニハ既成法典人事編第二百七十一條ニ於ケルカ如ク必ズ裁判所ニ於テ管理人ヲ選定スヘキコトヲ言ハス然ルモ管理人ノ權限ヲ規定スルハ或ハ其當ヲ得サルカヲ疑フ者アラフ然レトモ財産ノ管理ニ付必要ナル處分(二五)云ヘハ通常管理人ヲ選定スルヲ以テ第一著ト爲スハ論ヲ俟マス又舊ニハ別ニ管理人ヲ選定スル必要ナキコトモアラン故ニ必ズレモ管理人ヲ選定スヘキコトヲ言ハス裁判所ヲレテ便宜ノ處置ヲ爲サシメント欲シタルナリ殊ニ原案ニハ成ル可ク推定相續人ヲ以テ管理人ト

スヘキコトヲ言ヘルモ失餘ノ宜言アルマナハ不在者ヲ以テ未タ死ビセサル者ト看做サルハカラスルカ故ニ必ズレモ推定相續人ヲレテ財産ヲ管理セシムルコトヲ要セス最モ適任ノ人ヲ選ビテ之ヲ管理セシムヘキナシ法典編纂者モ最テ之ヲ悟ラサルニ非ヤルカ威ルハテナル斷ヲ用ザリ然リト雖モ法文ニハ右標ノ曖昧ナル文字ハカメテ之ヲ避クヘキカ故ニ寧ロ其全文ヲ削除スルノ愈レルニ如キスト信シタルナリ

既成法典人事編第二百七十五條ハ之ヲ削除セリ其理由由一則條ニ規定セシ事項ハ皆管理行爲外行爲ニレド本文第一項但書ノ場合ニ該當ス然ルニ此場合ニ於テハ必ズ裁判所ノ許可ヲ要スルモノトセシ

カ故ニ別ニ此ノ如キ法文ヲ要セサルナリ

## 第二十九條

(理由) 本條ハ既成法典人事編第二百七十四條ニ些少ノ修正ヲ加ヘタルモノナリ其要點左ノ如シ

- 一 原文ニハ擔保トシテ保護人其他相當ノ擔保ヲ立デシムルコトヲ得トアリタモ擔保ノ種類ハ一ニ裁判官ノ專斷ニ委スルカ又ハ民事訴訟法其他ノ手續法中ニ規定セシモノナリト信スルヲ以テ單ニ擔保ト改メタリ

二 原文ニハ管理人ハ推定相續人ヲ除ク外其請求ニ因リハ裁判所ノ定メタル給付ヲ受クトアリタルモ既ニ推定相續人中ヨリ管理人ヲ選ブノ主義ヲ改メタル以上ハ特ニ推定相續人就言フハ其當ヲ得サルノミナラス假令推定相續人ナラサルモ子カ父ノ財産ヲ管理シ父カ子ノ財産ヲ管理スルカ如キ



(理由) 本條ハ既成法典人事編第二百七十六條ニ稍重要ナル修正ヲ加ヘタルモノナリ其要點左ノ如ク

一原安ニハ不在者ノ代理人ヲ定メ置キタルトシテ之ヲ定ム此カサリシトニ四年限ニ差等ヲ設ケル  
 離モ代理人ノ定ム置クトシテ之ヲ定ム此カサルトハ多クハ偶然ノ事實ニテ忽チ死ビテハヤキキ代理  
 人ヲ定ム此カサ長ク生存スヘキハ代理人ヲ定ム置クモノト斷定ス難キカ知レ故ニ此差等ヲ廢シ

二原文ハ右石區別に依リ五年ヲハ七年ノ後失踪ノ宣告ヲ請求スルコトヲ得ルモノトモ然リ  
離レ既ニ宣告ヲ達ヘルカ如ク失踪ノ宣告ヲ以テ死亡ニ等シキ效力ヲ生ズヘキモノトスル以上違  
海外ニ旅行スル者多シ今日ニ在リテハ五年乃至七年ハ通例ノ場合ニ於テハ短期ニ失スルベク  
二二非ス故二十年ト改メリ

三、然レトモ右ハ通常ノ場合ニ就テ論シタルモノニシテ本文第二項ノ場合ニ於テハ殊ニ死亡ヲ推定スルノ理由アルヲ以テ五年、七年猶ホ且ツ其長キヲ覺メ故ニ之ヲ三年ニ短縮シタリ

四、原文ニハ失踪者ノ死亡ニ因リテ發生スル權利ヲ其財産上ニ有スル者ニ限り失踪ノ宣告ヲ請求ス

第三十一條

證據出フルマデハ死者ト看做スヲ可トシタルナリ(此ニ援引セル國々ノ法律ニ於テモ或ハ單ニ相續ニ付テノミ失蹤者ヲ死者ト觀ルモノナキニ非スト雖モ是亦事理ニ合ハス品質際ニ便ナラサルヲ以テ今之ヲ取ラス)

二(既成法典ニ據レハ)ノ生れ死ニ付テハ必ス確證ヲ要スルノ主義ヲ執リ失蹤者ハ幾分モ死者ニ近キ取扱ヲ受クルト雖モ失蹤ノ宣告前ノ不在者ヲ以テ生者ト看做サス某ノ時ニ生存スル者ノ限リ某ノ權利ヲ有スヘキ場合ニ於テハ寧ロ之ヲ死者ト如ク取扱フヘキモトセリ斯クテ如ク失蹤ノ宣告前既ニ不在者ノ權利ヲ認メス失蹤ノ宣告後猶モ他ノ利害關係人ノ權利ヲ認メス初メニハ死セシカ如ク後ニハ却テ生ケルカ如ク初メニハ他ノ利害關係人ノ權利ヲ認メテ後ニハ却テ之ヲ認メサルハ甚モ事理ニ合ハス今之ヲ改メテ失蹤ノ年限マデハ不在者ト生者ト看做シ其後ハ之ヲ死者ト看做シ以テ權利ノ所在ヲ明カシメリ

三(既成法典ニハ)トモ失蹤ノ宣告アレトキハ失蹤者ハ亡失又ハ最後音信ハ日ニ於ケル推定相續人其他失蹤者ハ死亡ハ因リテ發生スル權利ハ其財産上ニ有スル者ハ直チニ其財産ニ占有スルコトヲ得ルモノトセリ(八二八〇二項)是レ蓋シ佛伊此等ノ國ニ於テハ失蹤ノ宣告カ直チニ右ノ效力ヲ生スルニ非スト雖モ今頗ラ恐レテ敢テ説カズ爾等ノ法律及ヒ白國民民法草案ニ規定セラルナリ然リト雖モ亡失ノ日又ハ最後音信ノ日ニ其者カ死亡セリト推測スヘキ場合ハ極メテ稀ナルヘレ然ラズレハ何ヲ以テ亡失後又ハ最後音信後數年ヲ待チテ始メテ其失蹤ノ宣告セラルカ恰モ亡失後又ハ最後音信後數

年ヲ經テ歸來シ又ハ其生存セル證據分明ナルコト多キカ故ニ數年ヲ待チテ始メテ其失蹤ノ宣告セシムルニ非スヤ然ラハ則チ何レノ時ヲ以テ死亡シタルモノト看做スヘキカ此點ニ關シテハ右ノ佛民法ノ主義ノ外漢西國民民法ニハ明カニ某ノ日ヲ以テ死亡ノ日ト看做スト曰ハス唯死亡ハ推定ノ判決確定スルトキハ相續開始スヘキコトヲ言ヘルニ因リ少ク相續ニ付テハ右ノ判決確定ノ日ヲ以テ死亡ノ日ト看做シタルモノト謂ハサルヲ得ス又西國民民法ニ於テモハ佛伊等ニ於ケルカ如ク失蹤ノ宣告ハ未ダ右ノ效力ヲ生セサルモノトシ其後更ニ死亡ハ推定Presumption de mortisナルモノヲ宣告セシムルナリ)ラウブンデン普蘭西巴威爾其他數多ノ獨逸聯邦Mitte zum bayerischen Gesetzbuch für das Deutsche Reich, I. 26 (3) 面シテ此後者最モ正當ヲ得タルニ似タリ蓋シ裁判所ニ於テ失蹤ノ宣告スルニ當リ苟モ生死不分明ナルコト十年ニ國々數回同シカラス又改正案ニ於テモ場合ニ因リ十年ナラサルコトアリ)ニ達スルノ事實アレハ必ス之ヲ宣告セサルコトヲ得サルナリ故ニ失蹤者ヲ以テ

死シタルモノト看做スアリ(尙モ右ノ外公示僅告期間満了ノ日ヲ以テ死亡ノ日ト看做スノ國アリト雖モ其據メテ薄弱ナルヲ覺ルカ故ニ今之ヲ略ス) Motive zum bayerischen Gesetzbuch für das Deutsche Reich, I. 26 (3) 面シテ此後者最モ正當ヲ得タルニ似タリ蓋シ裁判所ニ於テ失蹤ノ宣告スルニ當リ苟モ生死不分明ナルコト十年ニ國々數回同シカラス又改正案ニ於テモ場合ニ因リ十年ナラサルコトアリ)ニ達スルノ事實アレハ必ス之ヲ宣告セサルコトヲ得サルナリ故ニ失蹤者ヲ以テ



死者ノ親レハ其宣告アルニ因リト曰フト雖モ其宣告ノ單ニ法律ニ定メタル事實アリニ因リト謂ヘサルコトヲ得ス是ニ由リテ之ヲ觀レハ其法律ニ定メタル事實ノ生セシ時ヲ以テ死ニノ時ト見ルモ理ノ當然ナルカ如シ殊ニ失踪ノ宣告ナルモノハ利害關係人ノ迷ニ之ヲ請求スルコト否ト又法官ノ其宣告ヲ意トシ否トニ因リ其日ヲ同シテウセス爲ニ相續其他ノ權利ヲ得ル者ヲ異ニスルカ如キコトアラハ豈ニ之ヲ不公平ト謂ハサルヘケンヤ況ヤ救済ナル利害關係人ハ失踪ノ宣告カ已ニ不利益ナル間ハ力メテ其事實ヲ隱蔽シ已ニ利益アルニ至ルトキハ速カニ之ヲ請求シ又他人カ之ヲ請求スルニ力リ若レ已ニ不利益ナルトキハ虚偽ノ事證ヲ作爲シテ一時其宣告ヲ延引セシメ已ニ利益アルヲ待チテ之ヲ宣告セシムルカ如キ詐欺ヲ行フコトナキヲ保セサルヲヤ或ハ曰フ失踪ノ宣告ノ效力法律ニ定メタル期間満了ノ時ニ過ルキハ其當時何人カ相續人タルヘキ權利ヲ有セシカ又失踪者ノ終身間享有スヘキ權利ニ付テハ幾年間不當ニ之ヲ享有セシカ等種々煩雜ナル問題ノ起スヘレ而シテ事證ニ數年乃至十數年前ニ係ルキハ之ヲ調査スルコト極メテ難カキヘレ然リト雖モ此不便ヲ以テ前ノ便益ニ比シレハ利害關係ヒテ猶ホ微リアルカ如シ

## 第三十二條

(理由) 一 既成法典ニハ失踪ノ宣告ヲ以テ生死ノ分界ヲ示スモノトセサルカ故ニ失踪者カ後日ニ至リ現出シタル場合ニ付テハ細ニ規定スル所アリト雖モ失踪者ノ死ビタル時ニ付テ正權ナル宣告ヲ得タル場合ニ關シテハ毫モ直接ニ規定スル所ナシ今失踪ノ宣告ニ由リテ假ニ死ビタル時ヲ定ムルカ故

ニ若シ失踪者カ之ト異ナリタル時ニ死ビタル確證ヲ得バトキハ其事實カ如何ナル效力ヲ失踪者ノ親族上又ハ財産上ノ關係ニ及ボスカヲ規定セサルヘカフス

二 既成法典ニ於テハ失踪者カ後日ニ至リ現出シタル場合ニ付キ其現出ノ事實ノ因リ失踪ノ宣告ハ其效力ヲ失フヘキモノトセリト雖モ是レ聊カ不確實タルヲ免レサルヲ以テ本案ニ於テハ特ニ裁判所ノ取消ヲ必要トセリ且既成法典ハ單ニ財産ニ付テノ規定ニ毫モ親族上ノ關係ニ付テ規定スル所ナシ故ニ人事編第二百八十二條第一項ニ因リ失踪ニ基ケル離婚モ失踪者カ後日現出スルト同時ニ其效力ヲ失ヒ其婦人ハ更ニ失踪者ノ妻タル資格ヲ回復シテ離婚後既ニ他人ト再婚シタル場合ニ於テハ其再婚モ亦自ラ無効ニ歸スヘキカ如シ是レ頗ル妥當ヲ缺クノ虞ニ免レズ故ニ本案ニ於テハ一切ノ行爲ニ付テ失踪ノ取消其效力ヲ既往ニ及ボササルヲ原則キレタリ

三 既成法典ニ據レハ失踪者後日ニ至リ現出シタルキハ失踪ノ宣告ニ依リ財産ヲ占有スル者ハ現在ノ債ニテ其財産ノ元本ヲ返還シ對ホ既ニ處分シタル財産ニ付テハ單ニ之ニ由リテ不當ニ取リタル利得ノモヲ返還スヘキモノ人二八二二項ニ其事實ニ付テハ生死不分明ナルコト十年ニ及ブマデハ必ス其五分ノ一ヲ失踪者ニ返還セサルヘカフス(人二八三)是レ聊カ權衡ヲ得サルモノアルカ如シ故ニ寧ロ元本ト果實トヲ分メ凡ソ占有者カ現ニ利得スル所ノモノハ之ヲ返還スヘシ其他ハ一切之ヲ返還スルコトヲ要セト改メテ蓋シ占有者ノ裁判所ニ於テ不在者ノ失踪ノ宣告シタルニ因リ失踪者ヲ以テ死者ナリト信シ其財産ヲ正當ニ獲タリト思惟シ總シ其所有者タルノ考慮ヲ以テ之ヲ處分セシ